

旧下竹田小ドジョウ5万匹放流



温泉水をためたプールにドジョウの稚魚を放流する関係者ら＝竹田市直入町



放流後、ドジョウを使った料理を試食

温泉で養殖始まる

竹田市直入町の旧下竹田小学校敷地内に湧いている温泉水をプールにためたドジョウ養殖を大分市内の建設会社、修進建設（木元修司社長＝顔写真）が始めた。現地で放流祭があり、ドジョウ約5万匹を初めてプールに放流した。来年5月には竹田市直入町のブランド「芹川どじょう」として全国に向け出荷する。



放流祭には、木元社長 60人が出席。稚魚を放流し、竹田市が今年6月にプール施設の活用を公募した際に、修進建設がドジョウ養殖ニールハウスで囲い、水温（53）をはじめ、首藤勝次市長や直入保育園の園児ら約100人が参加し、やき揚げなどを試食した。

竹田市の旧下竹田小学校敷地内に湧いている温泉水をプールにためたドジョウ養殖を大分市の会社が始めました。

①ドジョウを温泉水で養殖するメリットは何でしょう。

を一定に保てるようにしている。
 今回放流した稚魚は約5万匹。出荷する5月には13万匹ほどに育つ。
 木元社長は「養殖ドジョウは需要に供給が追いつかないほど」と有望性を強調。「温泉の利用で水温を温める燃料費の削減や、商品サイズにドジョウが育つまでの期間短縮が見込める」と学校施設を活用したメリットを説明している。
 同社は2010年から大分市吉野の養殖場でドジョウ養殖を開始。現在、食用と飼用に年間約6万匹を全国各地に出荷。来年は年間約10万匹、将来的には年間約100万匹の出荷を見込んでいる。

(2014年12月24日朝刊14面)

③学校施設と温泉水、ほかの活用方法を考えてみよう。

②ドジョウはどのように食べられますか。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....